

## 日興・GS 世界ソブリン・ファンド (毎月分配型)

追加型投信／内外／債券

## 交付運用報告書

第207期 (決算日2020年 8 月17日) 第208期 (決算日2020年 9 月15日) 第209期 (決算日2020年10月15日)  
第210期 (決算日2020年11月16日) 第211期 (決算日2020年12月15日) 第212期 (決算日2021年 1 月15日)

作成対象期間 (2020年 7 月16日～2021年 1 月15日)

第212期末 (2021年 1 月15日)	
基準 価 額	5,007円
純 資 産 総 額	3,935百万円
第207期 ～ 第212期	
騰 落 率	△0.7%
分配金 (税込み) 合計	120円

(注) 騰落率は分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書 (全体版) に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書 (全体版) は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書 (全体版) の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書 (全体版) は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興・GS 世界ソブリン・ファンド (毎月分配型)」は、2021年 1 月15日に第212期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、世界先進国の信用度の高いソブリン債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

&lt;952346&gt;

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目 7 番 1 号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

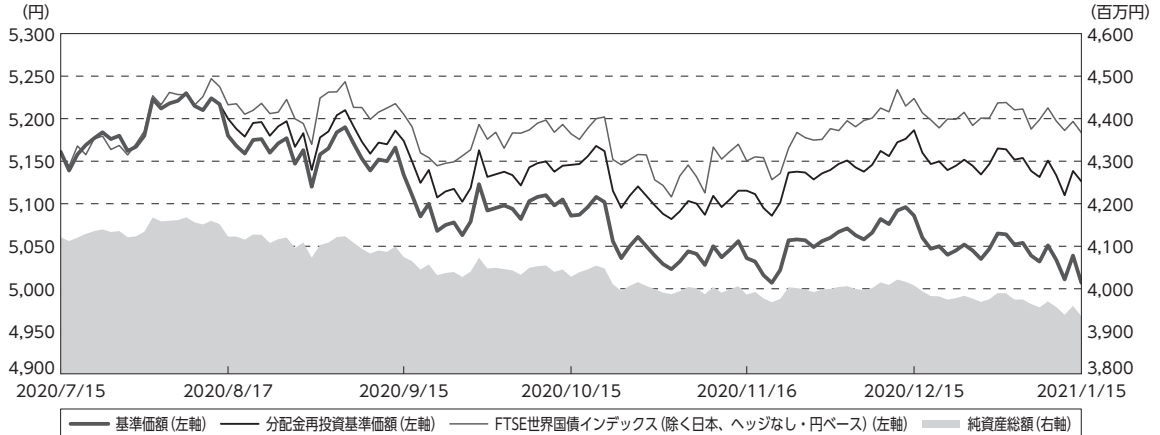
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2020年7月16日～2021年1月15日)



第207期首：5,161円

第212期末：5,007円 (既払分配金 (税込み)：120円)

騰落率：△0.7% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびFTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、作成期首 (2020年7月15日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は当ファンドの参考指数です。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、世界先進国の信用度の高いソブリン債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・債券国別配分戦略がプラスに寄与したこと。
- ・通貨配分戦略がプラスに寄与したこと。

## &lt;値下がり要因&gt;

- ・債券・円短期金融商品における資産間配分がマイナスに影響したこと。

## 1 万口当たりの費用明細

(2020年7月16日～2021年1月15日)

項 目	第207期～第212期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	円 11 ( 2) ( 8) ( 1)	% 0.222 (0.044) (0.161) (0.017)	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (監査費用)	0 ( 0)	0.002 (0.002)	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	11	0.224	
作成期間の平均基準価額は、5,095円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

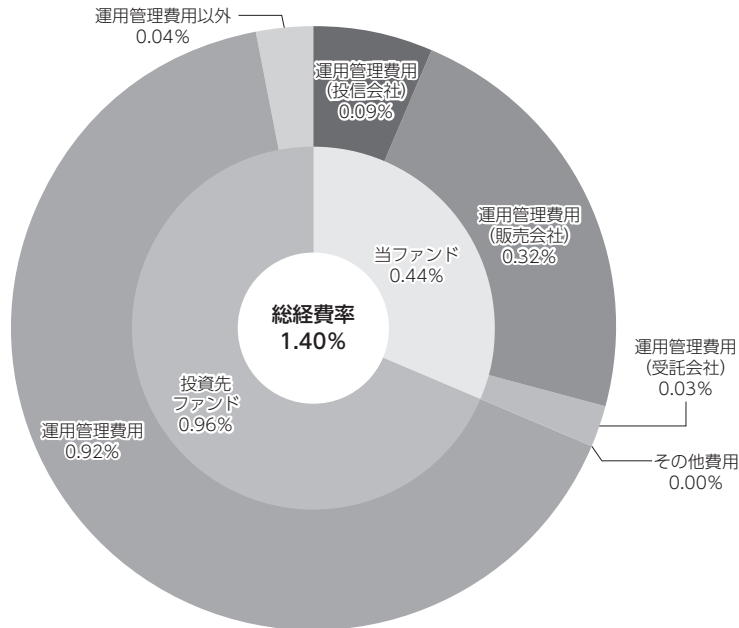
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## (参考情報)

## ○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.40%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.40
①当ファンドの費用の比率	0.44
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.92
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.04

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

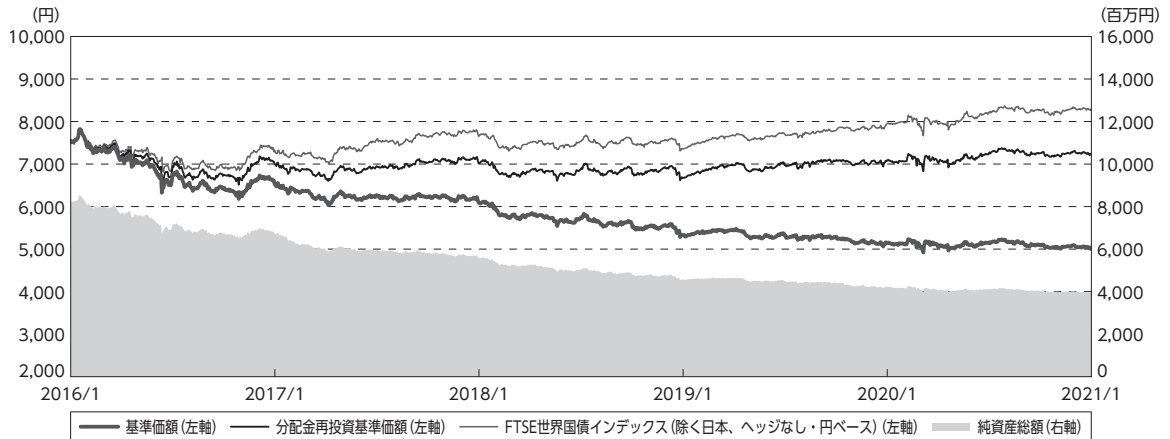
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2016年1月15日～2021年1月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびFTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)は、2016年1月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2016年1月15日 決算日	2017年1月16日 決算日	2018年1月15日 決算日	2019年1月15日 決算日	2020年1月15日 決算日	2021年1月15日 決算日
基準価額 (円)	7,547	6,525	6,070	5,295	5,132	5,007
期間分配金合計(税込み) (円)	—	480	480	480	460	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 7.2	0.5	△ 5.0	5.7	2.3
FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) 騰落率 (%)	—	△ 2.9	5.1	△ 4.3	7.7	4.1
純資産総額 (百万円)	8,251	6,714	5,555	4,537	4,208	3,935

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。

## 投資環境

(2020年7月16日～2021年1月15日)

## (海外債券市況)

期間中は、米国の10年国債利回りは上昇(債券価格は下落)し、欧州では英国10年国債利回りが上昇した一方、イタリアやスペイン、フランスなどでは利回りが低下(債券価格は上昇)するなど、まちまちの結果となりました。

米国においては、期間の初めは世界各地で新型コロナウイルスの感染拡大が継続していることへの警戒感から利回りは低下しました。その後、雇用統計をはじめ、米国国内の一部の経済指標が市場予想を上回ったことや、国債増発による需給悪化懸念などを背景に利回りは上昇傾向となりました。2020年11月には米国大統領選挙で民主党バイデン氏の勝利が確実となるにつれ、政治の先行き不透明感が後退し、利回りは上昇しました。さらに、大手製薬会社などが開発する新型コロナウイルスのワクチンが高い有効性を示し、景気回復が早まるとの見方が強まったことも利回りの上昇要因となりました。期間末には、米国の追加経済対策の与野党協議が合意に至ったことや、新型コロナウイルスのワクチン接種への期待感の高まりを背景に、米国国債利回りは上昇しました。

ユーロ圏においては、期間の初めは米国の経済指標が予想を上回ったことから利回りが上昇する場面もありましたが、2020年8月のドイツのPMI(購買担当者景況指数)改定値が製造業と非製造業のいずれも市場予想を下回ったことや、中央銀行の政策委員会メンバーが、同国の経済成長が下振れするリスクに言及したことなどから利回りは低下しました。その後も欧州各国で新型コロナウイルスの感染が再拡大し、景気回復のペースが鈍化するとの見方などから利回りが低下し、ドイツのみならず周辺国の国債利回りも低下しました。11月に入ると、大手製薬会社などが開発する新型コロナウイルスのワクチンが高い有効性を示したことで、景気が回復に向かうとの期待が高まった局面などで利回りは上昇しましたが、その後、ECB(欧州中央銀行)による追加緩和観測が浮上すると利回りは低下傾向で推移しました。12月は英国で感染力が強い新型コロナウイルスの変異株の広がりから、投資家のリスク回避姿勢が強まり、利回りは低下しました。2021年1月は株価上昇などにより金利は上昇しました。

## (国内短期金利市況)

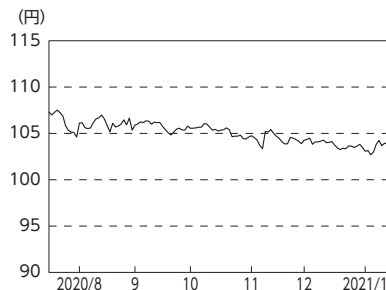
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.02%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.02%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券(TB)3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.09%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.10%近辺で期間末を迎えました。

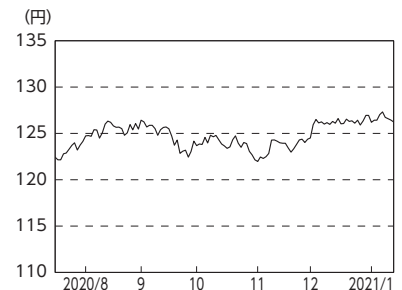
## (為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、右記の推移となりました。

円/アメリカドルの推移



円/ユーロの推移



**当ファンドのポートフォリオ**

(2020年7月16日～2021年1月15日)

**(当ファンド)**

当ファンドは、「世界ソブリン・ベビーファンド」受益証券を高位に組み入れ、残余部分は「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券を中心に組み入れて運用を行ないました。

**(世界ソブリン・ベビーファンド)**

「世界ソブリン・ベビーファンド」は、「計量世界債券マザーファンド」受益証券を高位に組み入れ、信託財産の長期的な成長を図ることを目標としたファンドです。

「計量世界債券マザーファンド」では、以下のような運用がなされました。

**①債券・円短期金融商品における資産間配分**

債券と円短期金融商品における資産間配分では、概ね強気としました。期間中の資産間配分は本マザーファンドのパフォーマンスに小幅マイナスに影響したと推定されます。

**②債券国別配分**

債券国別配分の本マザーファンドのパフォーマンスへの影響はプラスであったものと推定されます。日本に対して弱気とし、ドイツや英国に対して強気としていたことがマイナス要因となりましたが、カナダに対して弱気とし、オーストラリアに対して強気としていたことがプラス要因となり、戦略全体としてはプラスとなりました。

**③通貨配分**

通貨配分は、債券の配分とは独立して行ないます。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して日本円が強気の見通しであれば、米国債券にはより多く配分する一方で、米ドルの配分を減らすということになります。

期間中の通貨配分戦略は本マザーファンドのパフォーマンスにプラス要因となったものと推定されます。英国やユーロ圏に対して弱気としていたことがマイナス要因となった一方で、スウェーデンやニュージーランドに対して強気としたことがプラスとなりました。

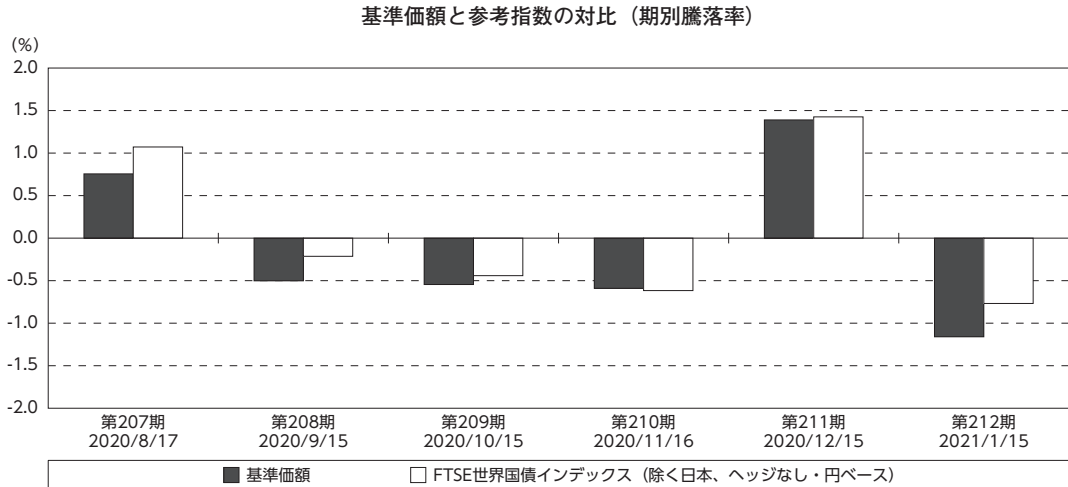
**(マネー・オープン・マザーファンド)**

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2020年7月16日～2021年1月15日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。  
 グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は当ファンドの参考指数です。



## 分配金

(2020年7月16日～2021年1月15日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第207期	第208期	第209期	第210期	第211期	第212期
	2020年7月16日 ～2020年8月17日	2020年8月18日 ～2020年9月15日	2020年9月16日 ～2020年10月15日	2020年10月16日 ～2020年11月16日	2020年11月17日 ～2020年12月15日	2020年12月16日 ～2021年1月15日
当期分配金	20	20	20	20	20	20
(対基準価額比率)	0.385%	0.388%	0.392%	0.396%	0.392%	0.398%
当期の収益	7	6	6	6	7	6
当期の収益以外	12	13	13	13	12	13
翌期繰越分配対象額	301	287	274	260	247	233

(注) 対基準価額比率は当期分配金 (税込み) の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

## (当ファンド)

引き続き、ファンドの基本方針に則り、原則として「世界ソブリン・ベビーファンド」受益証券を高位に組み入れ、残余部分は「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券を中心に組み入れて運用を行いません。

## (世界ソブリン・ベビーファンド)

主として「計量世界債券マザーファンド」受益証券に投資し、原則として、その組入比率を高位に保ちます。これにより、安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長をめざします。

債券国別、通貨、資産間の配分については、ファンドにおける組入比率を機動的に見直しつつ運用します。各戦略における対象資産の組入比率は、計量的手法を用いて、マクロ経済やミクロ経済などのデータや資産価格などの市場データについて詳細に評価し、ポートフォリオ全体のリスク・リターン特性が最適なものとなるように決定します。計量的な運用プロセスを一貫して適用していくことを通じて、中長期にわたってより高いリターンを追求することが可能であると考えています。

## ①債券・円短期金融商品間における資産間配分

資産間配分では、円キャッシュに対し、世界債券にモメンタムの観点からやや弱気の見通しとしていきます。

## ②債券国別配分

債券国別配分においては、オーストラリアやフランスに対して強気の見通しとする一方で、カナダや日本に対して弱気の見通しとしています。オーストラリアに対しては、マクロの観点から、フランスに対しては、バリュウの観点から強気とする一方で、カナダや日本に対しては、モメンタムの観点から弱気の見通しとしています。

## ③通貨配分

通貨配分においては、ニュージーランドや日本に対して強気の見通しとする一方で、米国やユーロ圏に対して弱気の見通しとしています。ニュージーランドに対しては、マクロの観点から、日本に対しては、バリュウの観点から強気の見通しとする一方で、米国に対しては、モメンタムの観点から、ユーロ圏に対しては、マクロおよび資金フローの観点から弱気の見通しとしています。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

## （マネー・オープン・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

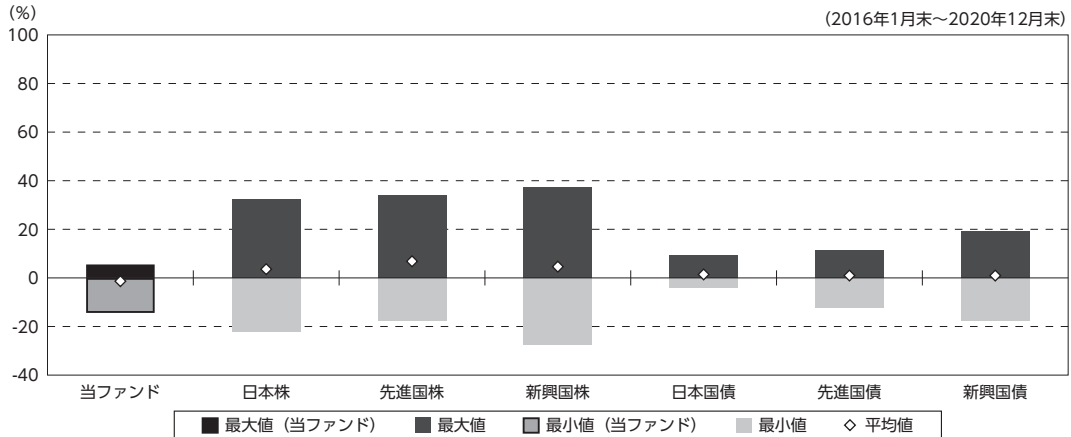
2020年7月16日から2021年1月15日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2003年3月28日から原則無期限です。
運用方針	投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「世界ソブリン・ベビーファンド」受益証券 「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託の受益証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、世界先進国の信用度の高いソブリン債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざします。
分配方針	毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	5.5	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△14.4	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	△1.4	3.6	6.8	4.6	1.4	1.0	1.0

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年1月から2020年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株: 東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株: MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債: JPMorgan GBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPMorgan GBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2021年1月15日現在)

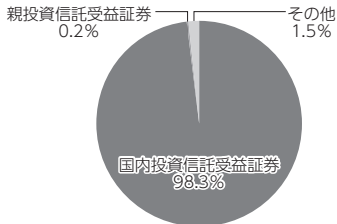
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第212期末
	%
世界ソブリン・ベビーファンド	98.3
マネー・オープン・マザーファンド	0.2
組入銘柄数	2銘柄

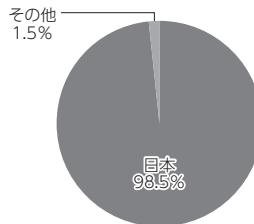
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

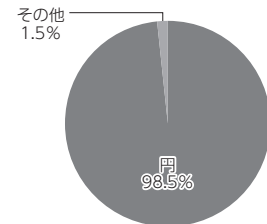
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第207期末	第208期末	第209期末	第210期末	第211期末	第212期末
	2020年8月17日	2020年9月15日	2020年10月15日	2020年11月16日	2020年12月15日	2021年1月15日
純資産総額	4,122,889,971円	4,074,601,713円	4,028,233,186円	3,986,250,241円	4,008,157,292円	3,935,291,451円
受益権総口数	7,958,695,941口	7,936,140,599口	7,920,439,103口	7,914,890,988口	7,880,681,443口	7,859,128,176口
1万口当たり基準価額	5,180円	5,134円	5,086円	5,036円	5,086円	5,007円

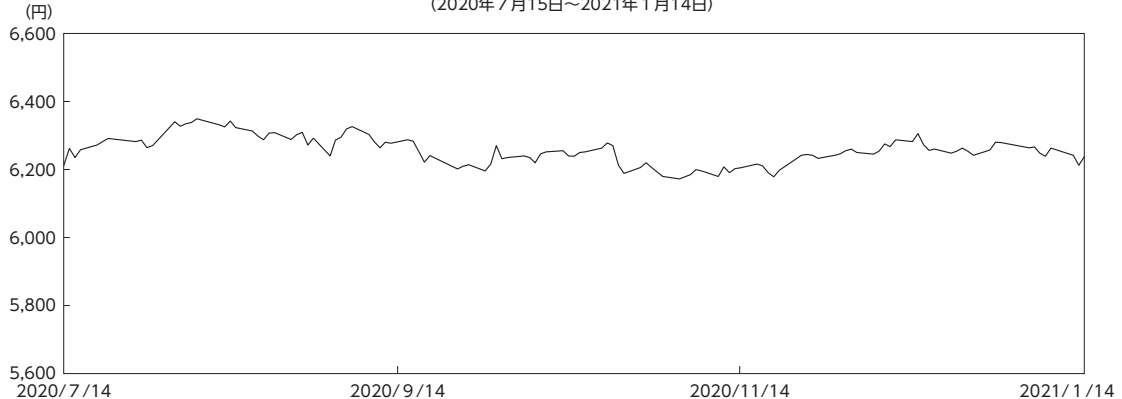
(注) 当作成期間（第207期～第212期）中における追加設定元本額は120,872,129円、同解約元本額は247,026,855円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 世界ソブリン・ベビーファンド

## 【基準価額の推移】

(2020年7月15日～2021年1月14日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

## 1万口当たりの費用明細

項目	第207期～第212期		項目の概要
	2020年7月15日～2021年1月14日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	29円 (19)	0.471% (0.305)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(10)	(0.161)	
(受託会社)	(0)	(0.006)	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	1 (1) (0)	0.009 (0.008) (0.001)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	1 (0) (0) (1)	0.018 (0.006) (0.003) (0.009)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合計	31	0.498	
期中の平均基準価額は6,214円です。			

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

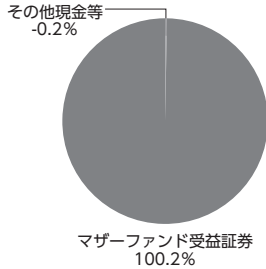
本ファンドの組入資産の内容 (2021年1月14日現在)

○組入れファンド

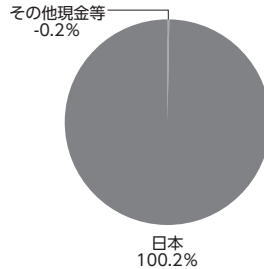
(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	比率
計量世界債券マザーファンド	100.2%

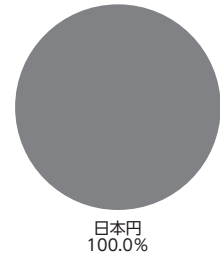
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



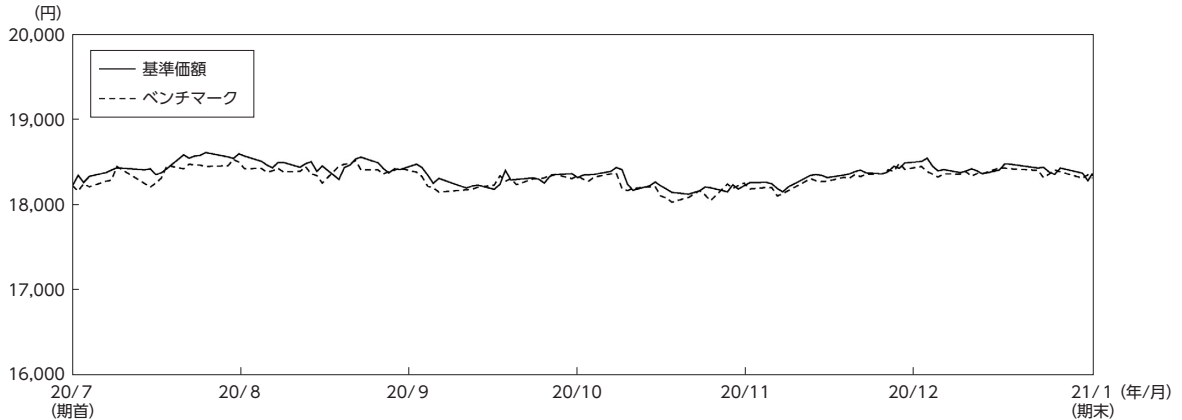
(注) 上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

— <ご参考> 計量世界債券マザーファンド —

### 組入上位ファンドの概要

計量世界債券マザーファンド (2021年1月14日現在)

○ 基準価額等の推移について (2020年7月15日～2021年1月14日)



(注1) 基準価額等の推移については組入れファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) ベンチマークはFTSE世界国債インデックス (日本を除く、為替ヘッジなし、円ベース) です。

(注3) ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

○ 1万口当たりの費用明細

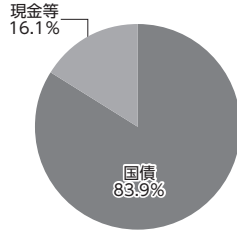
項目	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	2円 (1) (0)
その他の費用 (保管費用) (その他)	2 (1) (1)
合計	3

(注1) 1万口当たりの費用明細は組入れファンドの直近の計算期間のものであります。

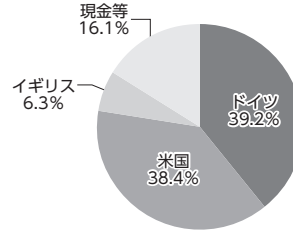
(注2) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ (1万口当たりの費用明細の項目の概要) をご参照ください。



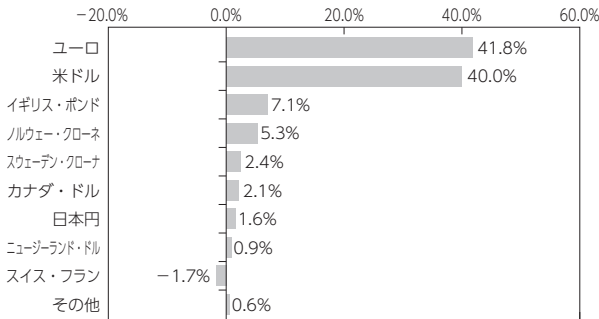
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

(組入銘柄数：12銘柄)

	銘柄	種別	通貨	比率
1	アメリカ国債 6.25% 2030年5月15日	国債	USD	12.9%
2	アメリカ国債 4.5% 2036年2月15日	国債	USD	12.9%
3	アメリカ国債 3% 2048年2月15日	国債	USD	12.6%
4	ドイツ国債 4.75% 2034年7月4日	国債	EUR	7.9%
5	ドイツ国債 4% 2037年1月4日	国債	EUR	7.9%
6	ドイツ国債 4.75% 2028年7月4日	国債	EUR	7.9%
7	ドイツ国債 5.5% 2031年1月4日	国債	EUR	7.8%
8	ドイツ国債 6.25% 2030年1月4日	国債	EUR	7.7%
9	イギリス国債 4.25% 2039年9月7日	国債	GBP	1.6%
10	イギリス国債 4.25% 2032年6月7日	国債	GBP	1.6%

(注1) 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄のデータは組入れファンドの直近の決算日時点のものです。

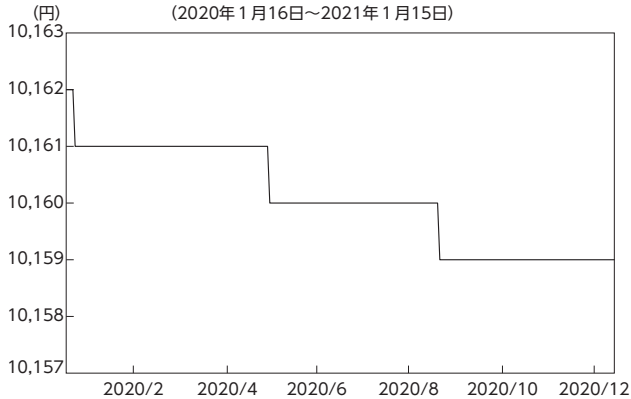
(注2) 上記の比率は全て組入れファンドの純資産総額に対する割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## マネー・オープン・マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2020年1月16日～2021年1月15日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2020年1月16日～2021年1月15日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 の 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,160円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書 (全体版) をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 組入資産の内容

(2021年1月15日現在)

2021年1月15日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書 (全体版) をご参照ください。